

Ⅱ 特別連載Ⅱ

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第341回

### 筑波大学の活動報告



平松 祐司  
(筑波大学  
医学医療系教授)



深谷 めぐみ  
(筑波大学附属病院  
国際医療センター  
国際医療コーディネーター)

#### ブラジル若手医師との交流

#### 高齢者医療と世界のがん治療

2022年9月11日～10月1日までの21日間、筑波大学附属病院は、科学技術振興機構（JST）の支援を受け、さくらサイエンスプログラムとしてブラジル・サンタクルス日本病院から若手医師3名を招へいし、研修を実施しました。筑波大学は送り出し機関であるブラジル・サンタクルス日本病院と2016年に協定を締結しており、現在でもその交流は継続されています。COVID-19の世界的な感染拡大に見舞われた時期も、オンラインによる交流を続け、今年度はついに招へいが叶い、相互の機関ともに大きな喜びとともにプログラムを開始しました。

今年度の大きな特色として、本学の医学医療系の学生による招へい者の出迎え・見送りをはじめ、各視察への同行、意見交換会などが計画に組み込まれており、これにより次の世代への交流機会が創出され、活発な交流が継続されることを狙いとしています。次の世代を担う若手医療者間の交流は大変貴重であり、学生にとっても素晴らしい経験となり未来への種となることを期待されます。

今年度の具体の計画としては、送り出し機関の若手医師（消化器外科医師、放射線科医師、老齢内科医師）3名を招へいし「高齢者医療と世界の痛治療」をテーマに、高齢者を取り巻く医療、主として痛治療のあり方や今

プログラムスケジュール	内容
1日目 (9月11日)	羽田空港到着、医学医療系学生が空港まで出迎え つくば市まで移動
2日目 (9月12日)	オリエンテーション 昼食後、各診療科にて研修開始
4日目 (9月14日)	夕方より医学医療系学生との意見交換会
7日目 (9月17日)	日本科学未来館視察 医学医療系学生が案内同行
13日目 (9月23日)	つくば市内研究施設（JAXA）視察 医学医療系学生が案内同行
20日目 (9月30日)	TGSW2022セッション参加@つくば国際会議場 招聘医師研修成果報告会（院内）、修了証授与式
21日目 (10月1日)	羽田空港から出国 医学医療系学生が見送り
22日目 (10月2日)	成田空港から出国 医学医療系学生が見送り

後想定される未来の高齢化社会を見据えた研究について、複数の診療科（消化器外科・放射線腫瘍科・リハビリテーション科）で課題に取り組み、研修・共同研究を行いつつ、相互のネットワークを構築し、今後の若手医療者の人材育成を図ることを目的としています。招へい者3名は夜遅くまで手術の見学をしたり、朝早くからのカンファレンスにも参加したりと、学びの多い日々を過ごしました。

9月14日には、学内にある「サザコーヒー筑波大学店」で医学医療系の学生とともに意見交換会を実施しました。この店舗では、送り出し機関と関連のあるブラジル・アリアンサ農園から提供される「アリアンサコーヒー」を楽しむことができ、母国の味とともに話題が尽きない時間となりました。学生からは今後のキャリアプランなどの質問があり、招へい者も自身の経験を熱心に伝え、次世代との交流も活発に行われました。

本院では若手医師の海外派遣を支援しており、将来的に多くの若手医師が、送り出し機関であるサンタクルス日本病院にも派遣され交流をしながら相互に研究を続けていくことが望まれます。

9月17日には、学生の案内で「日本科学未来館」を見学しました。電車での移動中は日本の景色や雰囲気を楽しみ、科学未来館では日本の科学技術に触れ、日本食にもトライし、



報告会で発表後に質問を受ける招へい者



医学医療系学生が空港まで迎え、ホテルチェックイン案内



研修報告会および修了証授与式

「招へい医師のキャリアについての話しを聞いたことで、自身のキャリアプランの参考となった」等の嬉しい声も聞かれました。このような国際的な視野をもつ両国の若手医療者の育成にも継続的に取り組んでまいります。最後に、コロナ禍での招へいによるアクシデントが発生した際にも、柔軟にご対応いただきご支援いただいたJSTからサイエンスプログラム推進本部の皆さまに心からの御礼を申し上げます。



医学医療系の学生と日本科学未来館見学

さらに、次世代の医療者間交流も視野に入れ、本学医学医療系の学生と招へい若手医師との意見交換会の開催や、視察同行など、交流を深められるようプログラムに工夫を凝らしたことで、学生からは「コロナ禍でも直接交流が叶い嬉しかった」や「招へい医師のキャリアについての話しを聞いたことで、自身のキャリアプランの参考となった」等の嬉しい声も聞かれました。このような国際的な視野をもつ両国の若手医療者の育成にも継続的に取り組んでまいります。最後に、コロナ禍での招へいによるアクシデントが発生した際にも、柔軟にご対応いただきご支援いただいたJSTからサイエンスプログラム推進本部の皆さまに心からの御礼を申し上げます。

日本文化を楽しみました。9月23日には、つくば市内にある研究施設を学生と一緒に見学する予定でしたが、当日は台風が上陸したため、JAXAのみの見学となりました。残念でしたが、招へい者からは「初めての台風を経験できた」と前向きな意見が聞かれました。9月30日は、研修最後のイベントである「Tsukuba Global Science Week 2022」のセッションに参加しました。セッションは国際会議場とオンラインで世界を結ぶハイブリッド形式で開催され、送り出し機関のブラジル・サンタクルス日本病院からDr. Sandra Hiroko WATANABE, Chief of the Division of Rheumatologyに「登壇いただき、「Osteoporosis in the Brazilian Elderly Population」の演題で」発表いただきました。また、会場では、「癌治療」と「高齢者」をキーワードに、消化器外科医師・腫瘍内科医師・循環器内科医師・精神神経科医師から多方面にわたる視点での発表があり、大変有意義なセッションとなりました。TGSWセッション終了後は院内に戻り、

SSP研修報告会および修了証授与式を開催しました。招へい者3名はそれぞれの研修成果の発表を行い、各診療科の担当医師から修了証が授与されました。10月1日、2日は、招へい者は2班に分かれ、学生に見送られ離日し、SSPを無事に終了することができました。 ■今後の展望 さくらサイエンスプログラム研修先機関である筑波大学附属病院は、その理念として「良質な医療を提供するとともに、優れた人材を育成し、医療の発展に貢献します」と掲げています。さくらサイエンスプログラムで実施される若手医師への技術研修、教育、国際医療課題への取り組みや国境を越えた医療者間の交流は、まさにその本質を具現化するものであり、受け入れ側、送り出し側の両機関にとって大変有意義なプログラムであると考えます。 このネットワークを活かし、本学と送り出し機関であるブラジル・サンタクルス日本病院とは協定を締結しており、今後も研究交流を続け、日本とブラジルの医療の架け橋となることを目指しています。